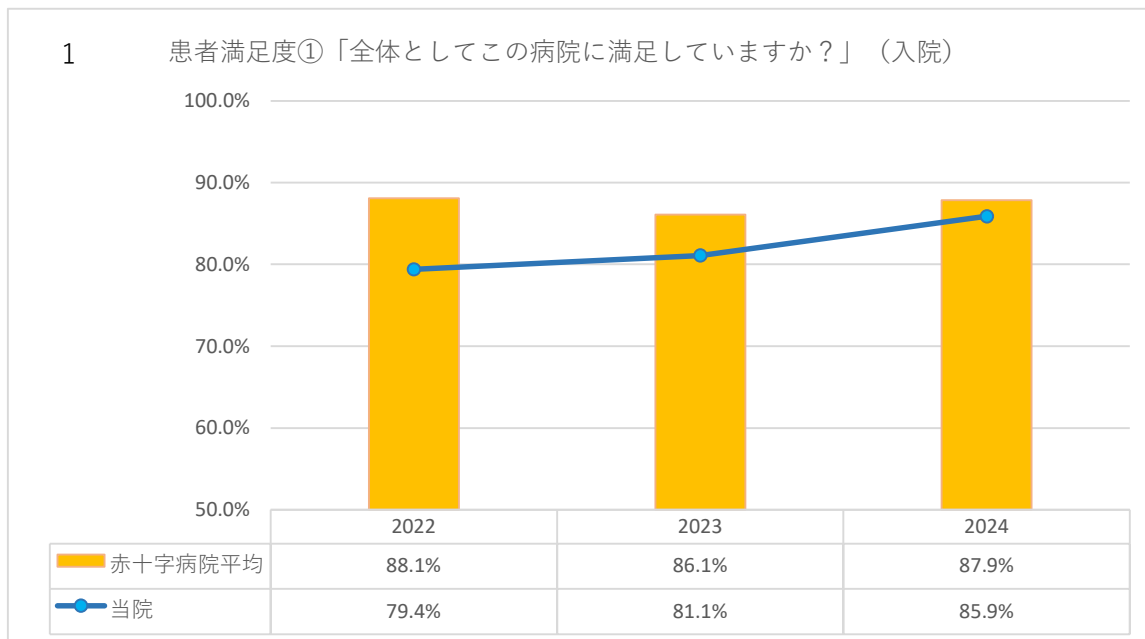


(赤十字病院グループ) 長岡赤十字病院 医療の質評価・臨床指標

項目番号	指標項目
1	患者満足度①「全体としてこの病院に満足していますか？」(入院)
2	患者満足度②「入院の原因となった病気や症状に対する診断や治療方針について、医師から受けた説明は十分でしたか？」(入院)
3	患者満足度③「全体としてこの病院に満足していますか？」(外来)
4	患者満足度④「診断や治療方針について、今日までに医師から受けた説明は十分でしたか？」(外来)
5	職員満足度「友人や家族が病気や怪我を患ったときに、あなたの施設を薦めたいと思いますか？」
6	転倒・転落①「入院患者での転倒転落発生率」
7	転倒・転落②「入院患者での転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3b以上の発生率」
8	インシデント・アクシデント①「1か月間・100床当たりのインシデント・アクシデント発生件数」
9	インシデント・アクシデント②「全報告中医師による報告の占める割合」
10	褥瘡推定発生率
11	中心静脈カテーテル挿入時の気胸発生率
12	急性心筋梗塞患者におけるアスピリン①「急性心筋梗塞患者における入院後早期アスピリン投与率」
13	急性心筋梗塞患者におけるアスピリン②「急性心筋梗塞患者における退院時アスピリン投与率」
14	Door-to-Balloon「急性心筋梗塞で病院に到着してからPCIまでの時間が90分以内の患者の割合」
15	早期リハビリテーション「脳梗塞患者への早期リハビリ開始率」
16	予防的抗菌薬「術後24時間以内の予防的抗菌薬投与停止率」
17	予防的抗菌薬「術後48時間以内の予防的抗菌薬投与停止率」
18	予防的抗菌薬「手術前1時間以内の予防的抗菌薬投与率」
19	服薬指導「薬剤管理指導実施率」
20	服薬指導「安全管理が必要な医薬品に対する服薬指導実施率」
21	栄養指導「糖尿病・慢性腎臓病患者への栄養管理実施率」
22	手術ありの患者の肺血栓塞栓症「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率」
23	手術ありの患者の肺血栓塞栓症「手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率」
24	再入院(30日)「30日以内の予定外再入院率」
25	職員の予防接種「職員におけるインフルエンザワクチン予防接種率」
26	細菌培養の実施「広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率」
27	血液培養の実施「血液培養の実施時の2セット実施率」
28	地域連携パス「脳卒中患者に対する地域連携の実施割合」

項目番号	指 標 項 目
29	地域連携パス「大腿骨頸部骨折患者に対する地域連携の実施割合」
30	心臓血管外科(冠動脈疾患、弁膜症)の主要手術死亡率
31	心臓血管外科(冠動脈疾患、弁膜症)の主要手術後の脳梗塞発生率
32	65歳以上の患者の入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合
33	身体拘束率

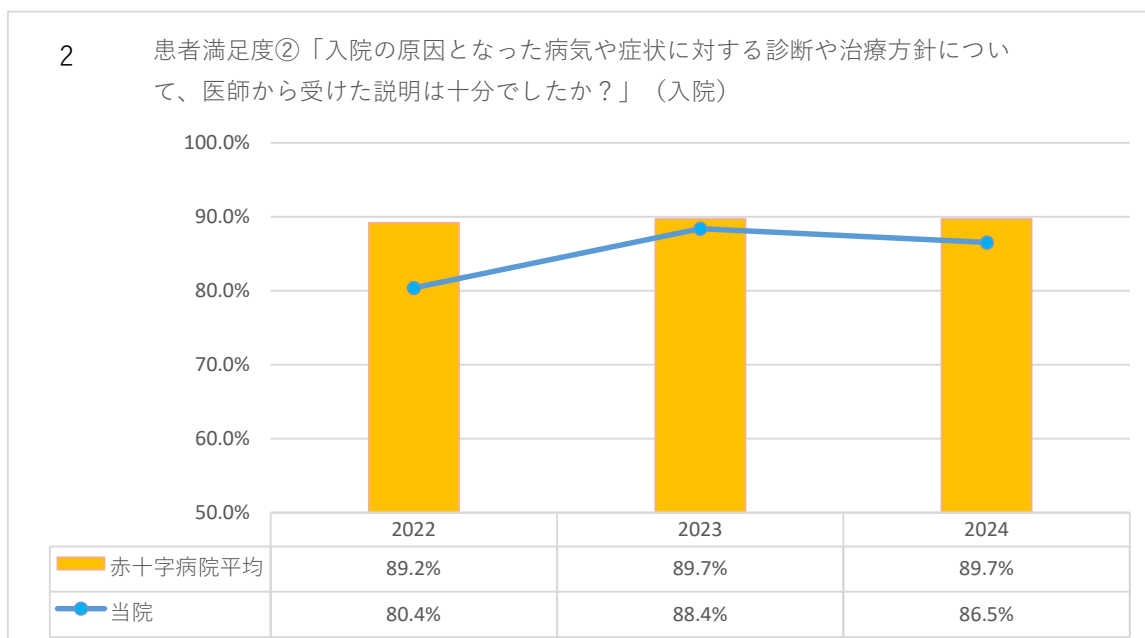
1



意義 「受けた治療の結果」、「入院期間」、「安全な治療」等に対する患者の満足度をみることは、医療の質の直接的な評価といえる。

計算方法 分母 入院患者への満足度調査項目「全体としてこの病院に満足していますか？」の設問有効回答数
分子 分母のうち、「非常に満足している」または「やや満足している」と回答した入院患者数

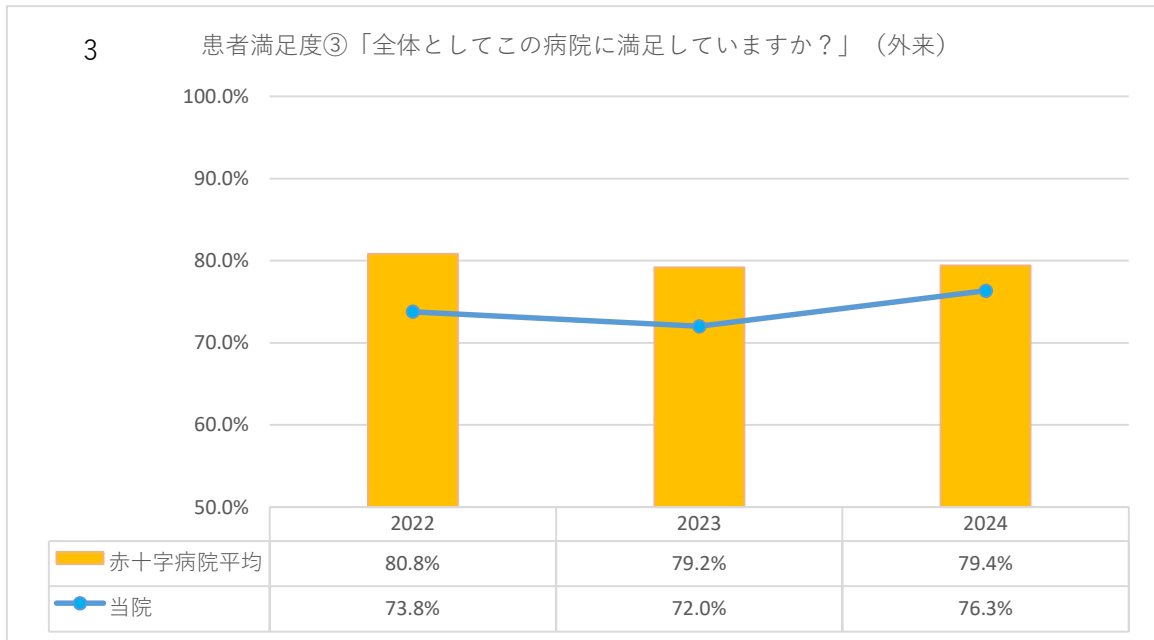
2



意義 「受けた治療の結果」、「入院期間」、「安全な治療」等に対する患者の満足度をみることは、医療の質の直接的な評価といえる。

計算方法 分母 入院患者への満足度調査項目「入院の原因となった病気や症状に対する診断や治療方針について、医師から受けた説明は十分でしたか？」の設問有効回答数
分子 分母のうち、「十分だった」または「まあまあ十分だった」と回答した入院患者数

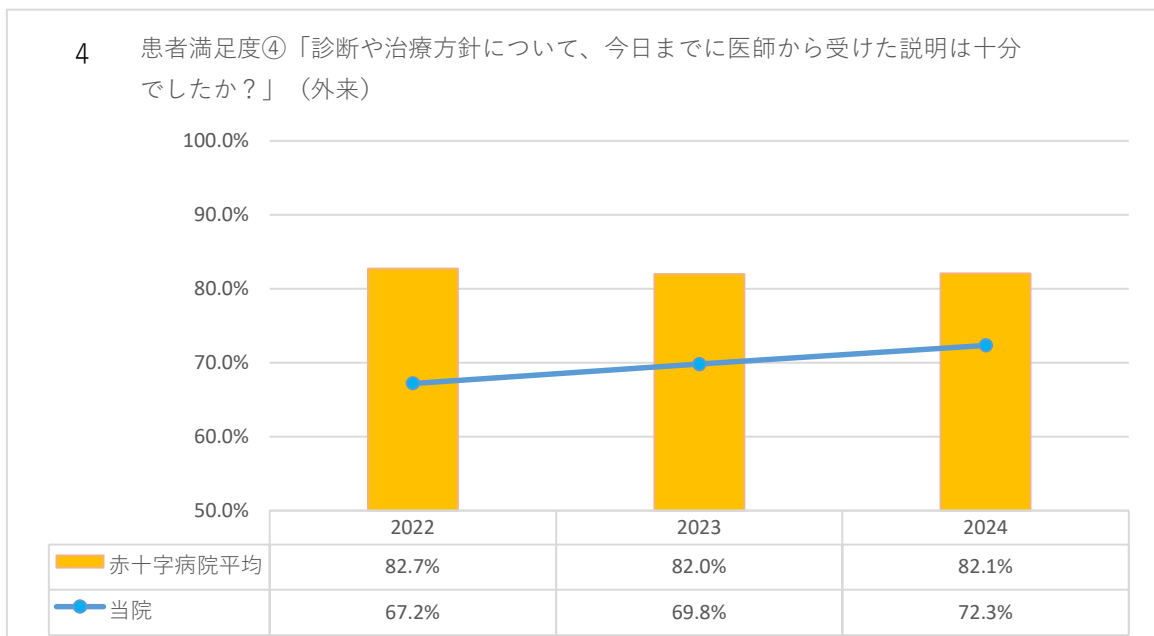
3



意義 「受けた治療の結果」、「外来待ち時間」、「安全な治療」等に対する患者の満足度をみることは、医療の質の直接的な評価といえる。

計算方法 分母 外来患者への満足度調査項目「全体としてこの病院に満足していますか？」の設問有効回答数
分子 分母のうち、「非常に満足している」または「やや満足している」と回答した外来患者数

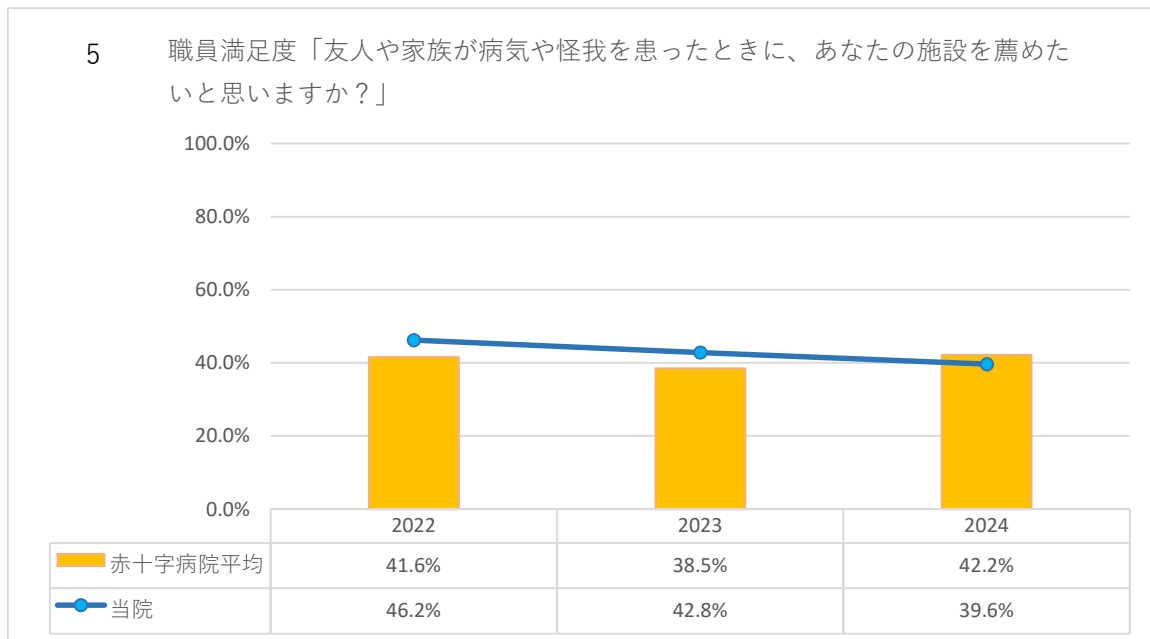
4



意義 「受けた治療の結果」、「外来待ち時間」、「安全な治療」等に対する患者の満足度をみることは、医療の質の直接的な評価といえる。

計算方法 分母 外来患者への満足度調査項目「診断や治療方針について、今日までに医師から受けた説明は十分でしたか？」の設問有効回答数
分子 分母のうち、「十分だった」または「まあまあ十分だった」と回答した外来患者数

5

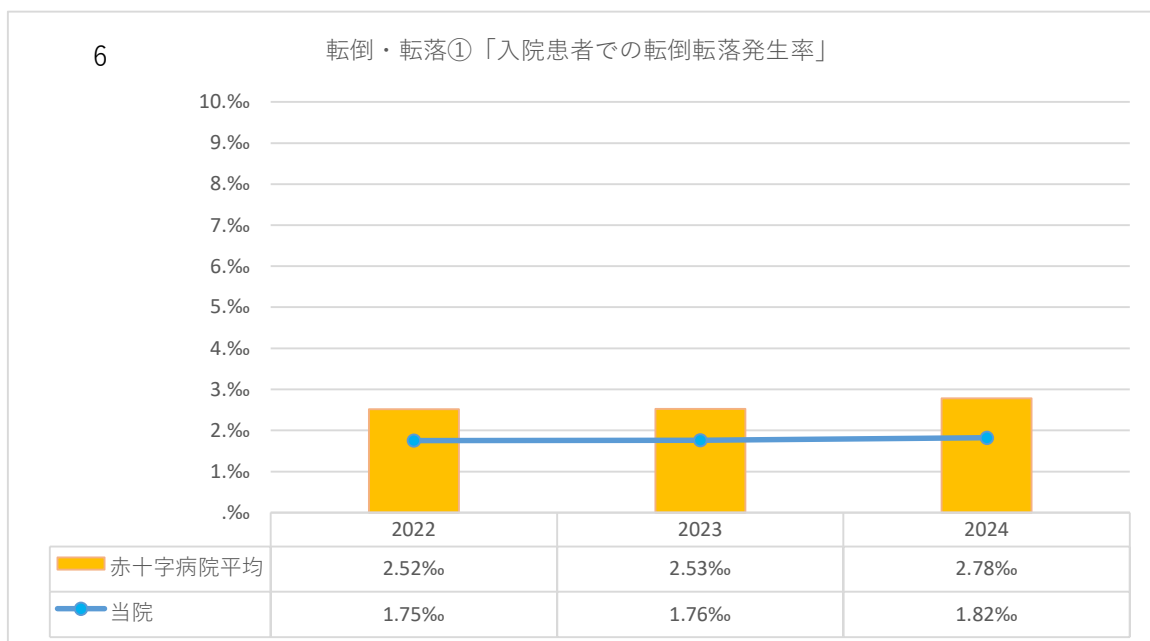


意義 病院における職員の満足度は、患者の HSMR（標準化死亡比）や患者へのケアの質に影響するという報告が複数あることから、医療の質を測る項目として用いる。

計算方法 分母 職員満足度調査項目「友人や家族が病気や怪我を患ったときに、あなたの施設を薦めたいと思いますか？」の設問有効回答数

分子 分母のうち、「強くそう思う」または「ややそう思う」と回答した職員数

6

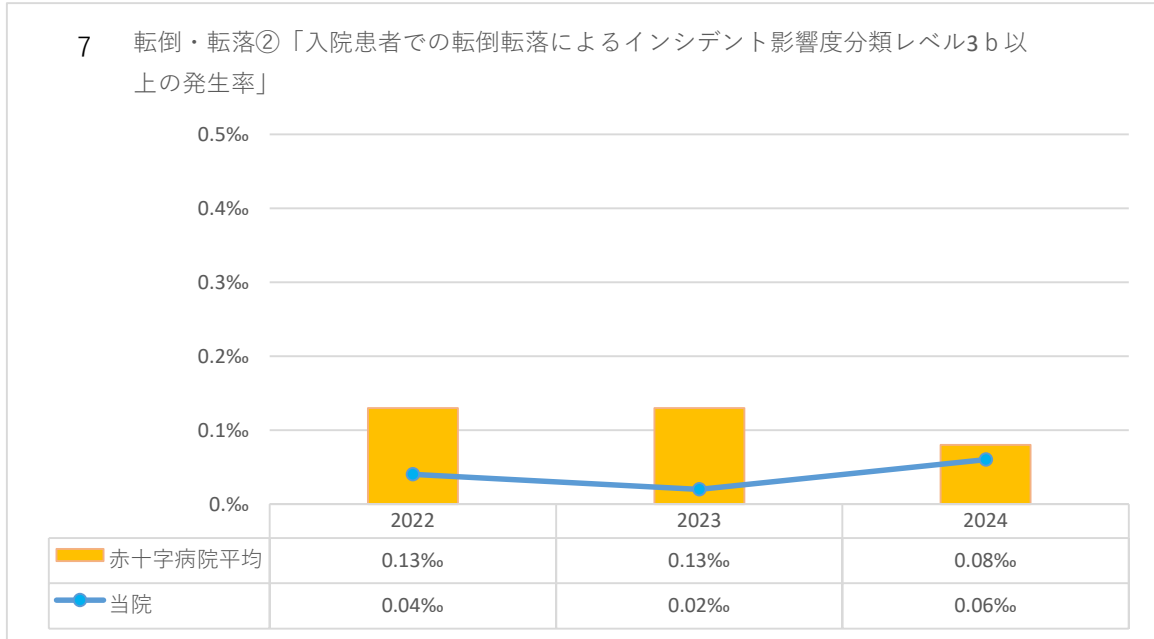


意義 転倒・転落を予防し、発生時の損傷を軽減する。

計算方法 分母 入院患者延べ数（人日）

分子 入院中の患者に発生した転倒・転落件数

7

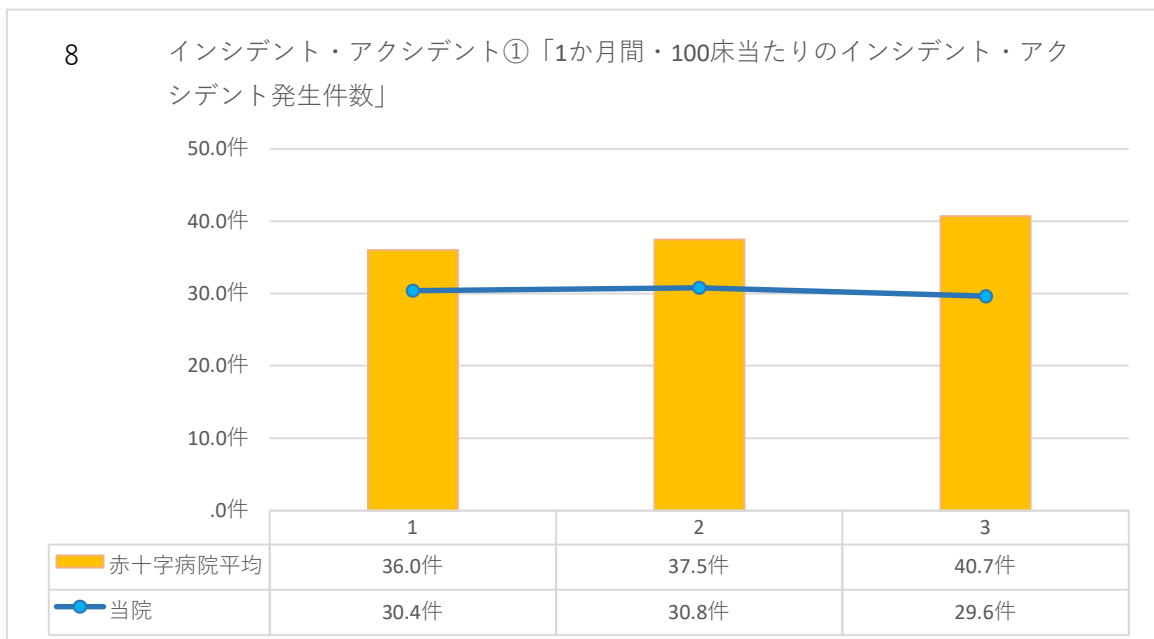


意義 転倒・転落を予防し、発生時の損傷を軽減する。

計算方法 分母 入院患者延べ数（人日）

分子 入院中の患者に発生したインシデント影響度分類レベル3b以上の転倒・転落件数

8

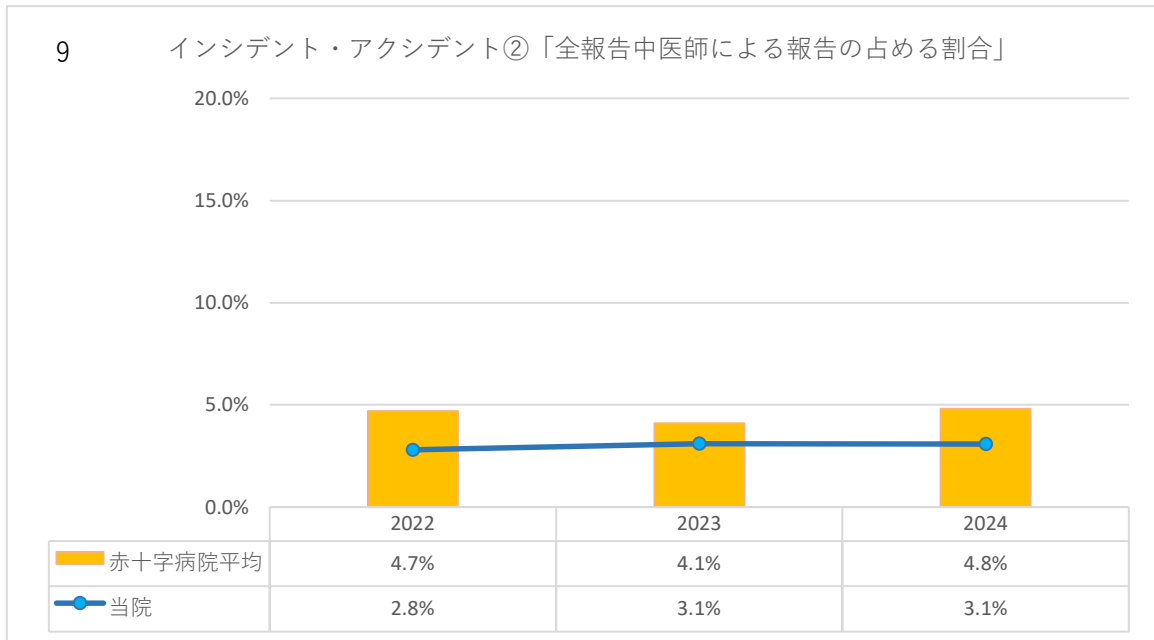


意義 身体への侵襲を伴う医療行為は常にインシデント・アクシデントが発生する危険がある。その発生をできる限り防ぐことは医療安全の基本である。仮にインシデント・アクシデントが生じてしまった場合、原因を調査し、防止策をとることが求められる。そのためにはインシデント・アクシデントをきちんと報告することが必要である。

計算方法 分母 許可病床数

分子 調査期間中の月毎のインシデント・アクシデント発生件数×100

9

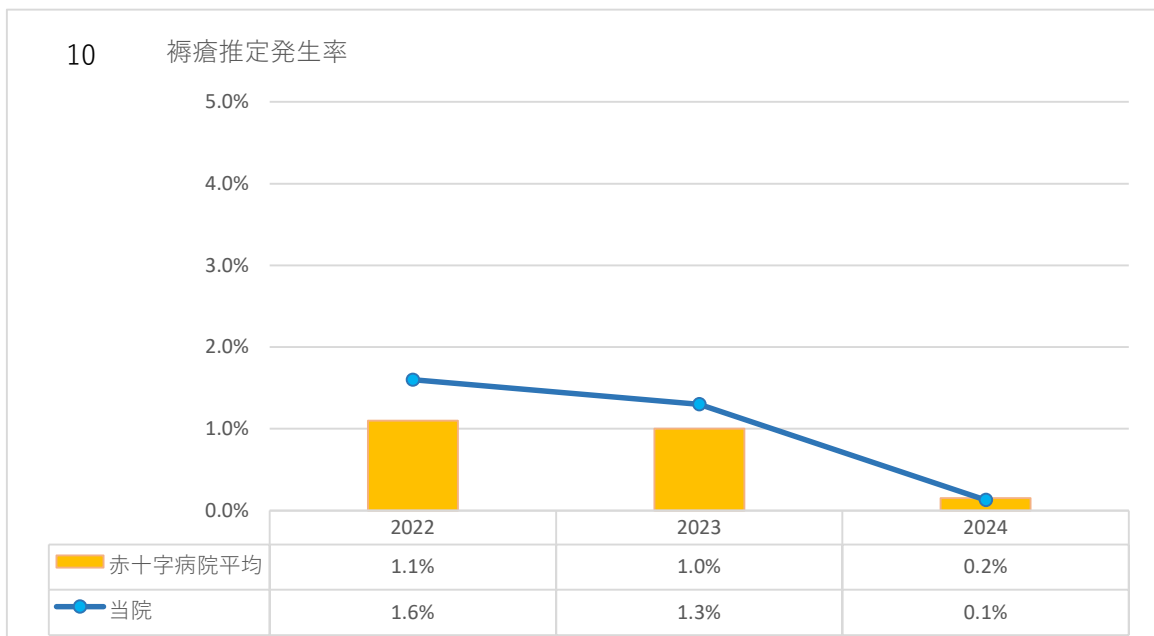


意義 一般に医師からの報告が少ないことが知られており、この値が高いことは医師の医療安全意識が高い組織の可能性がある。

計算方法 分母 調査期間中の月毎のインシデント・アクシデント報告総件数

分子 分母のうち、医師が提出したインシデント・アクシデント報告総件数

10

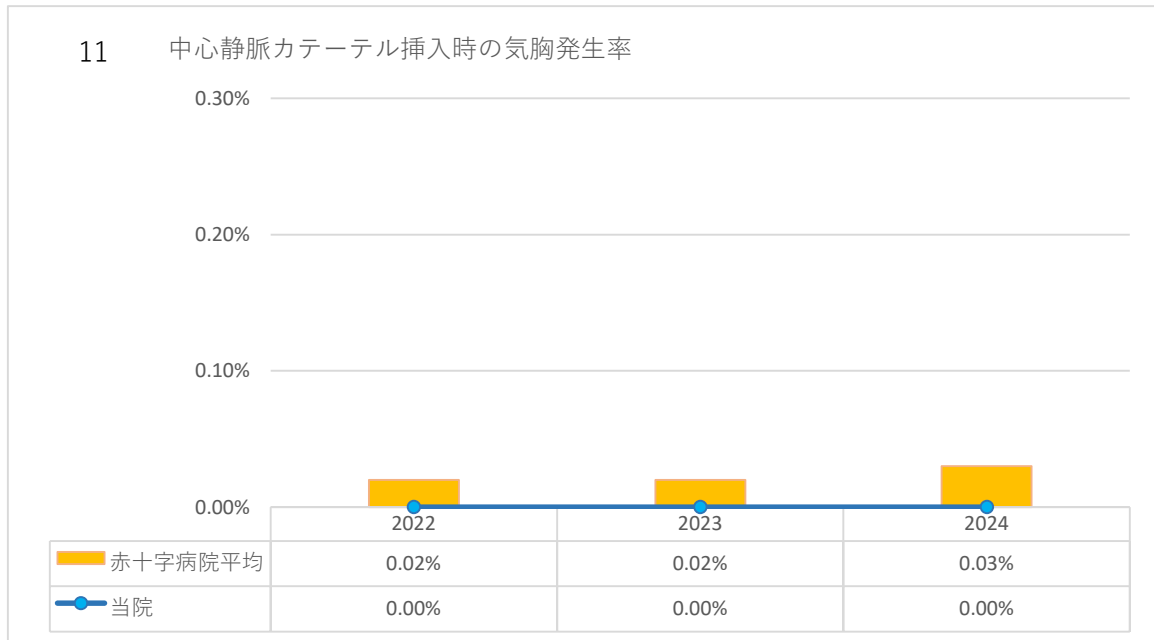


意義 褥瘡予防対策は、提供されるべき医療の重要な項目であり、栄養管理、ケアの質評価にかかわる。また患者の QOL の低下により、在院日数の長期化や医療費の増大につながる。

計算方法 分母 除外条件に該当する患者を除いた入院患者延べ数

分子 除外条件に該当する患者を除いた褥瘡（d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡）の新規発生患者数

11

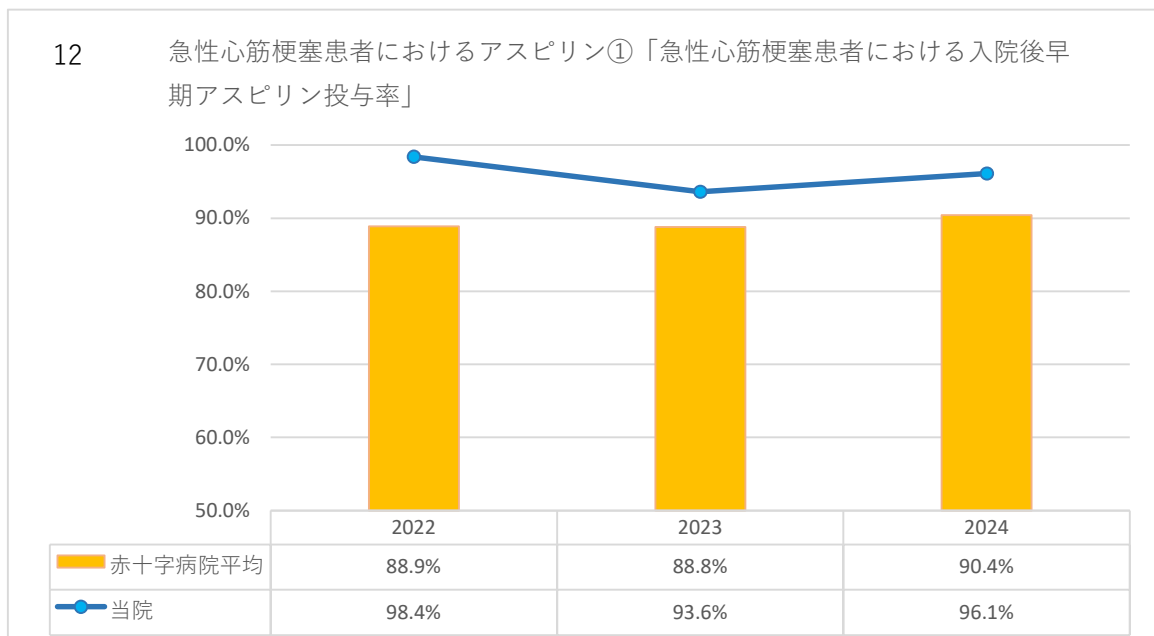


意義 他施設よりも値が高い施設では、再発予防に向けた安全管理を見直す契機になる。

計算方法 分母 中心静脈カテーテルが挿入された患者数

分子 分母のうち、入院後医原性気胸が発生した患者数

12

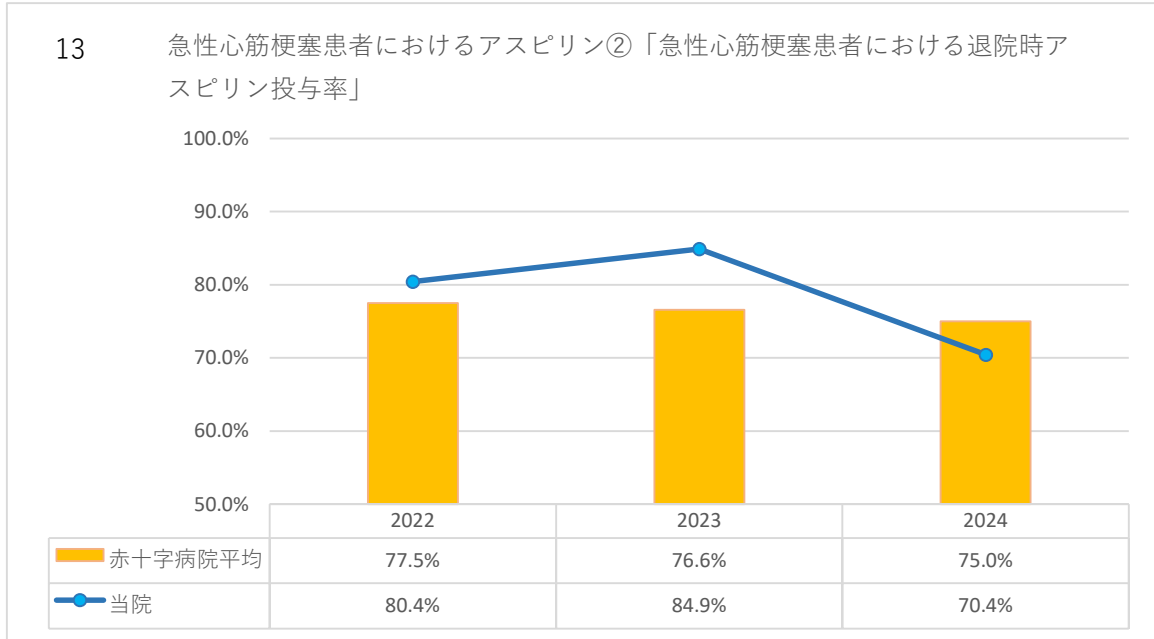


意義 心筋梗塞の二次予防としての標準的な診療が行われているかを図る。

計算方法 分母 急性心筋梗塞の診断で入院した患者数

分子 分母のうち、入院後早期（2日以内）にアスピリンもしくはクロピドグレルが投与された患者数

13

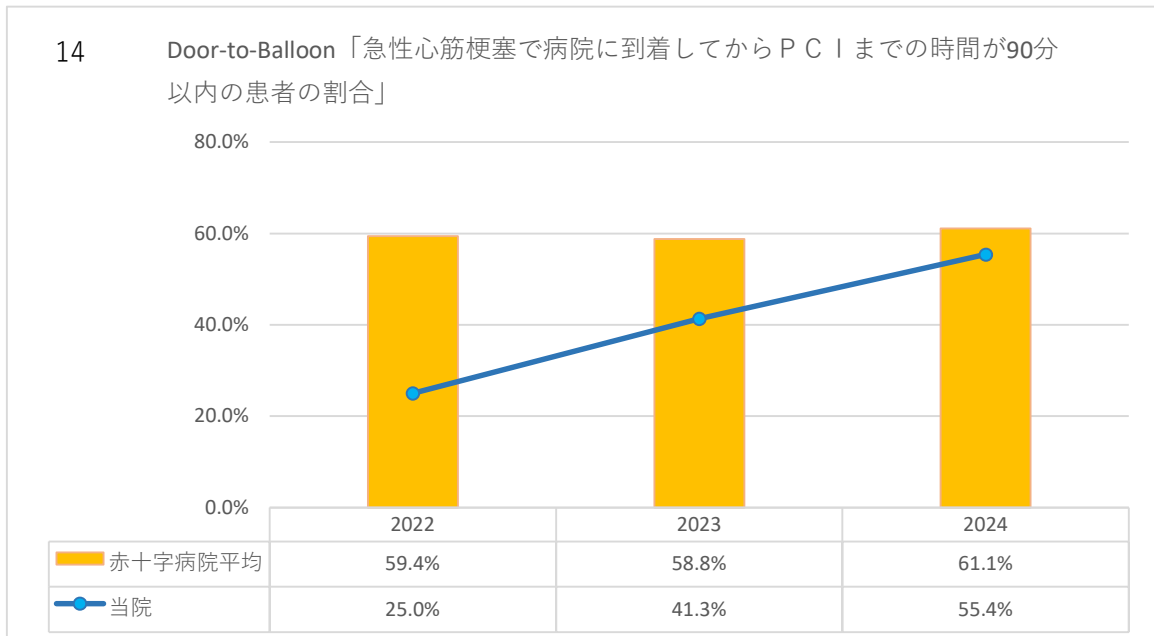


意義 心筋梗塞の二次予防としての標準的な診療が行われているかを図る。

計算方法 分母 急性心筋梗塞の診断で入院した患者数

分子 分母のうち、退院時にアスピリンもしくはクロピドグレルが投与された患者

14

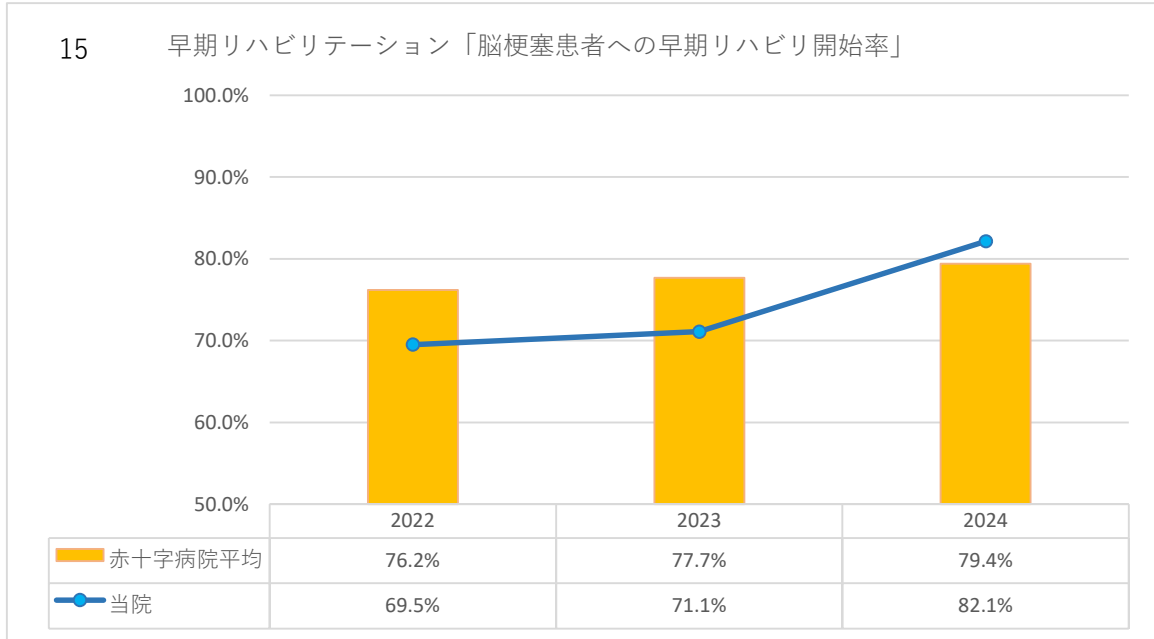


Door-to-Balloon time は施設での急性心筋梗塞がどれだけ迅速に治療されているかという治療の質を表す。この時間が短いほうが生存率や治療後の経過がよいことが知られている。

計算方法 分母 18歳以上の急性心筋梗塞でP C Iを受けた患者数

分子 分母のうち、来院後90分以内に手技を受けた患者数

15

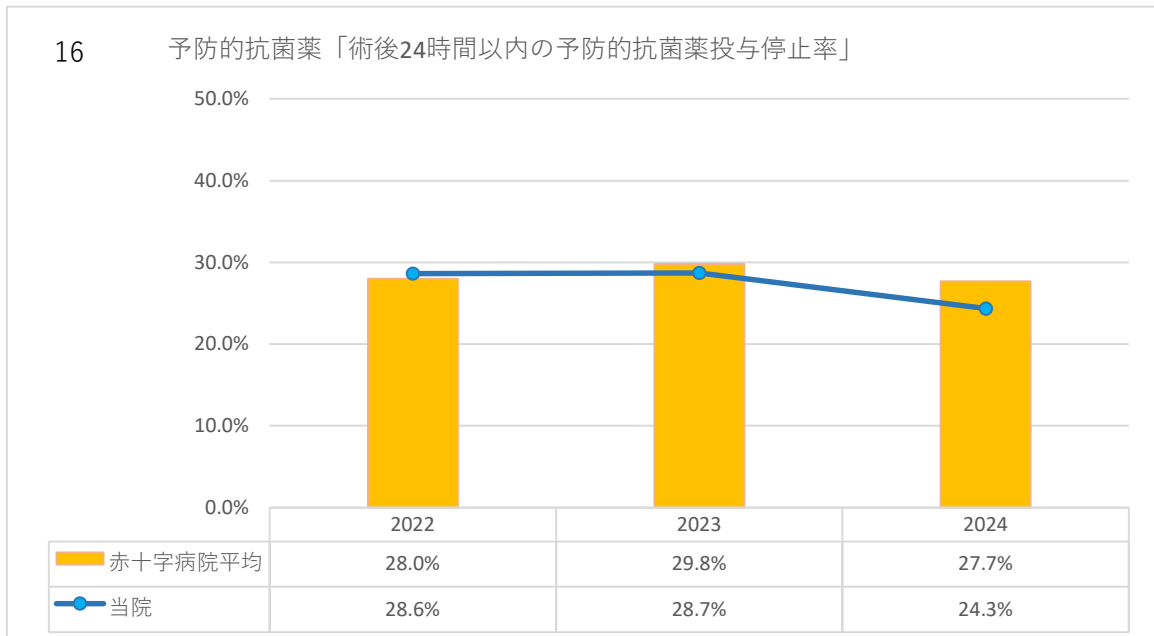


廃用症候群を予防し、早期のADL向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとにできるだけ発症後早期から積極的なリハビリテーションを行うことが強く勧められる。

計算方法 分母 18歳以上の脳梗塞の診断で入院した患者数

分子 分母のうち、入院後早期（3日以内）に脳血管リハビリテーション治療を受けた患者数

16

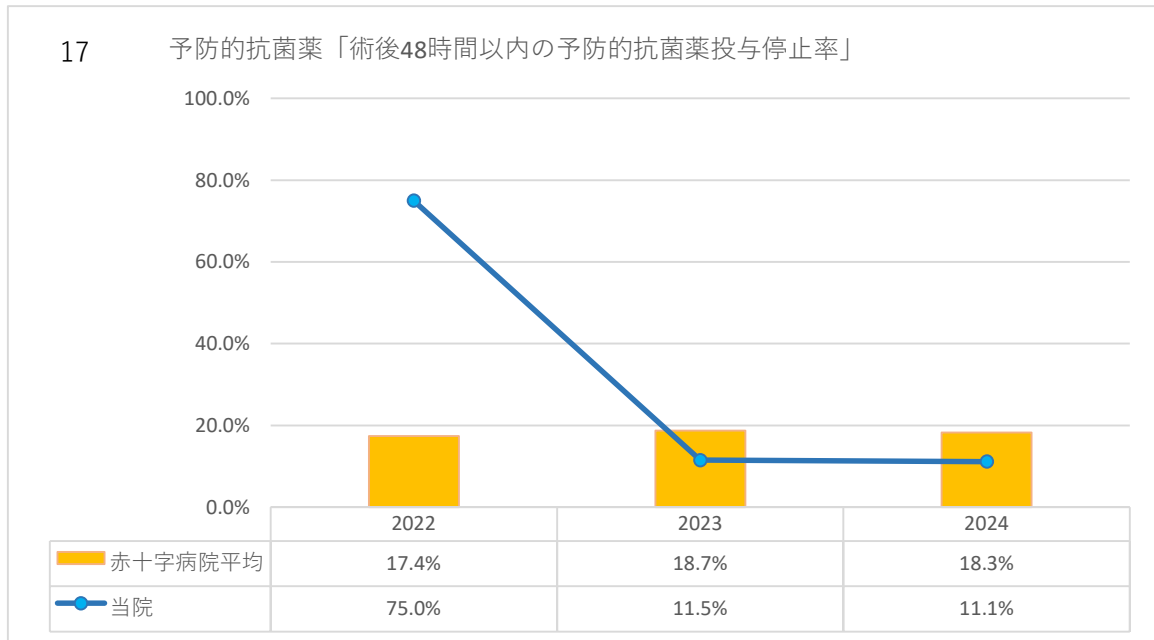


手術部位感染(SSI)を予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があるが、不必要に長期間投与することで、抗菌薬による副作用の出現や耐性菌の発生、医療費の増大につながる。

計算方法 分母 入院手術件数（股関節人工骨頭置換術・膝関節置換術・血管手術・大腸手術・子宮全摘除術）

分子 分母のうち、手術翌日に予防的抗菌薬が投与されていない件数

17



手術部位感染(SSI)を予防する対策の一つとして、手術前後の抗菌薬投与があるが、不必要に長期間投与することで、抗菌薬による副作用の出現や耐性菌の発生、医療費の増大につながる。

計算方法 分母 入院手術件数（冠動脈バイパス手術・そのほかの心臓手術）

分子 分母のうち、手術2日目に予防的抗菌薬が投与されていない件数

18

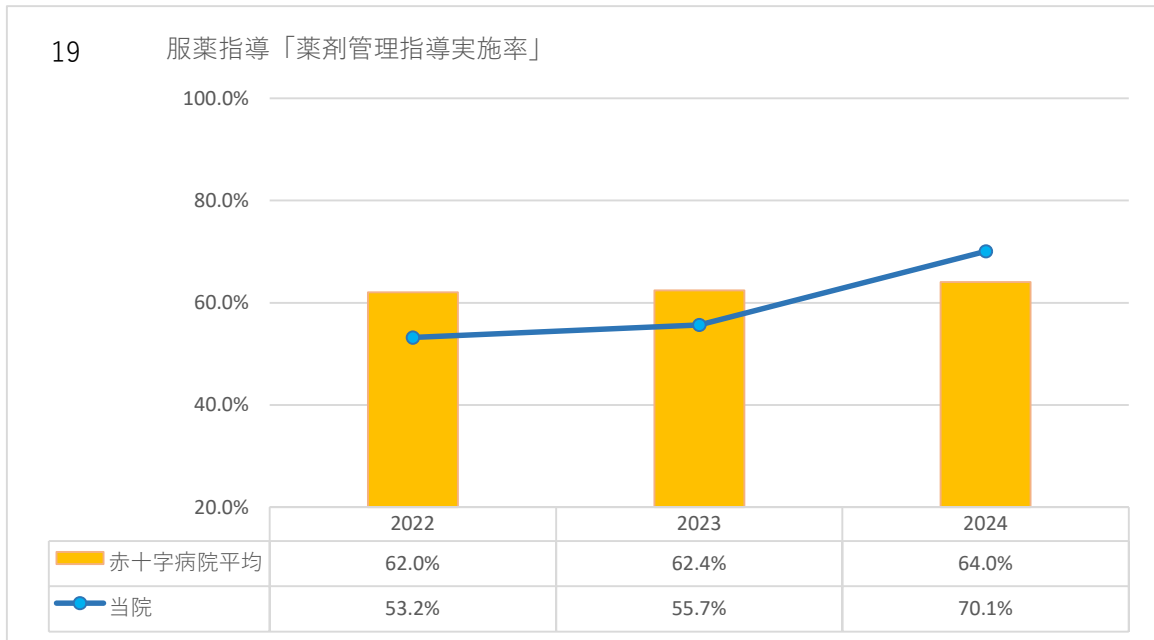


現在、細菌感染を起こしていないが、手術後の感染をできるだけ防ぐために、抗生物質をあらかじめ投与することを予防的抗菌薬投与といいます。開胸、開腹を伴う手術等は、手術開始直前に抗菌薬を点滴などで投与することにより、手術後の感染を抑えることが期待されています。

計算方法 分母 全身麻酔手術で、予防的抗菌薬投与が実施された手術件数

分子 分母のうち、手術開始前1時間以内に予防的抗菌薬が投与された手術件数

19

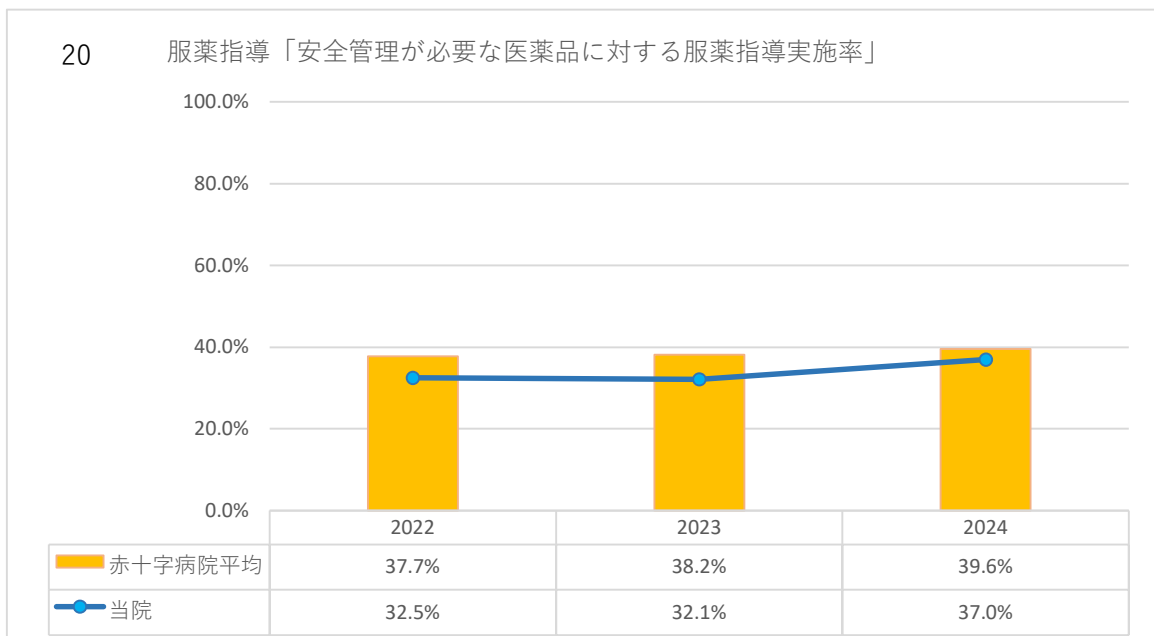


意義 薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながる。

計算方法 分母 入院患者数

分子 分母のうち、薬剤管理指導を受けた患者数

20

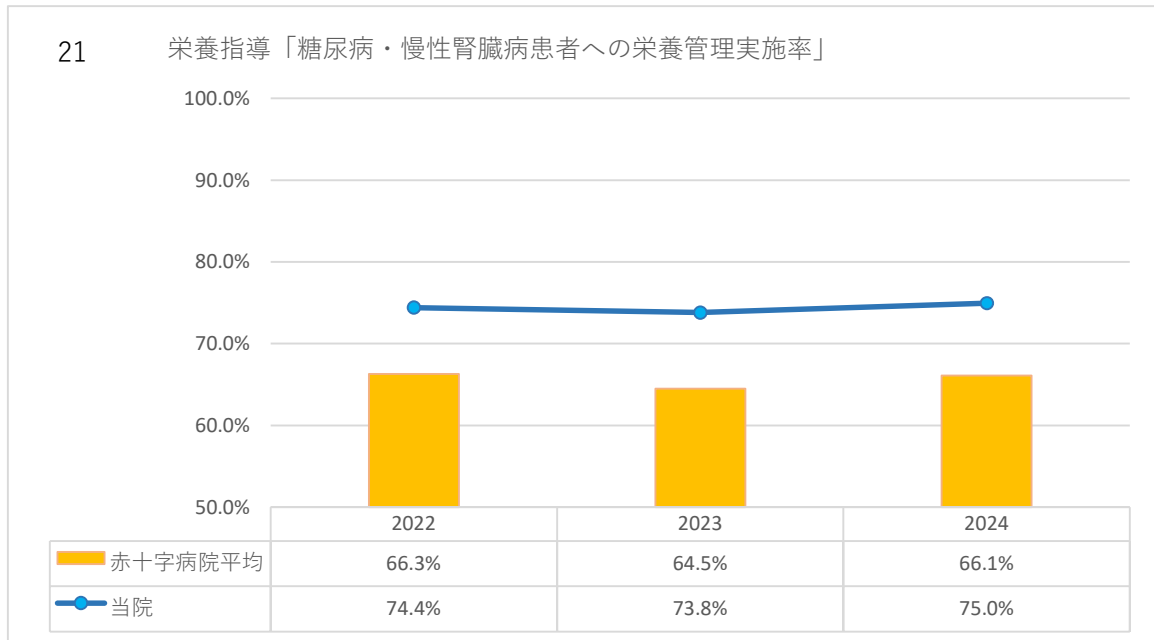


意義 服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者が認識すれば、アドヒアランスの向上(患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定にそって治療を受けること)に繋がると期待される。

計算方法 分母 特に安全管理が必要な医薬品として、別表に定める医薬品のいずれかが投薬又は注射されている患者数

分子 分母のうち、「B008薬剤管理指導料1 特に安全管理が必要な医薬品が投薬又は注射されている患者に対して行う場合」が算定された患者数

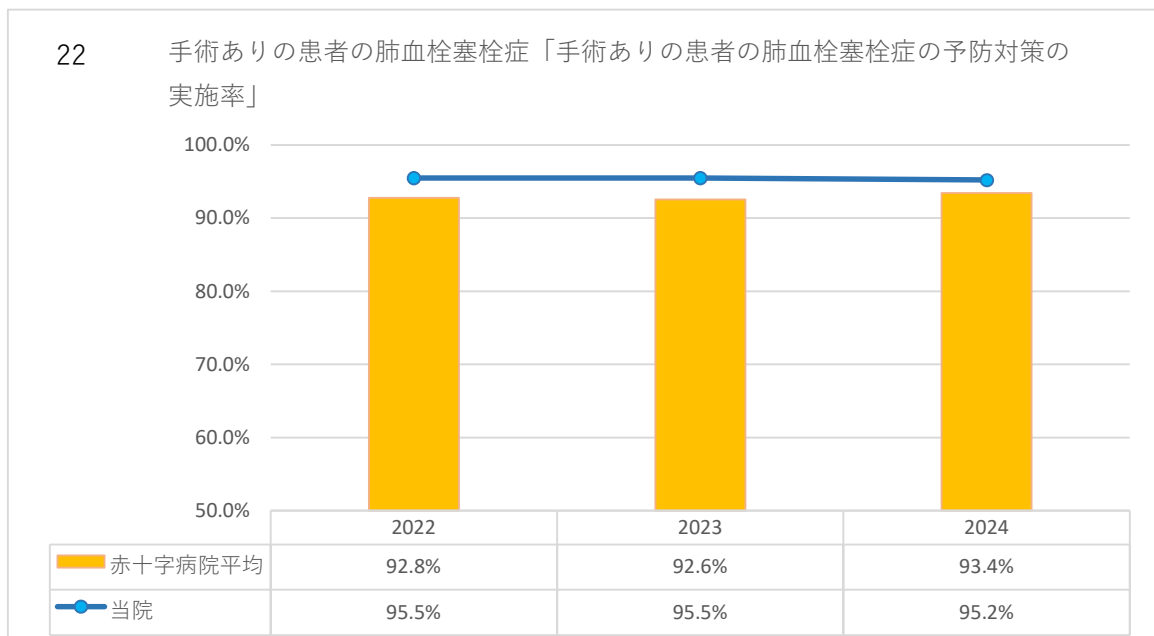
21



意義 積極的な栄養管理の介入。

計算方法 分母 18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病患者で、それらへの治療が主目的ではない入院患者の食事回数
分子 分母のうち、特別食加算の算定回数

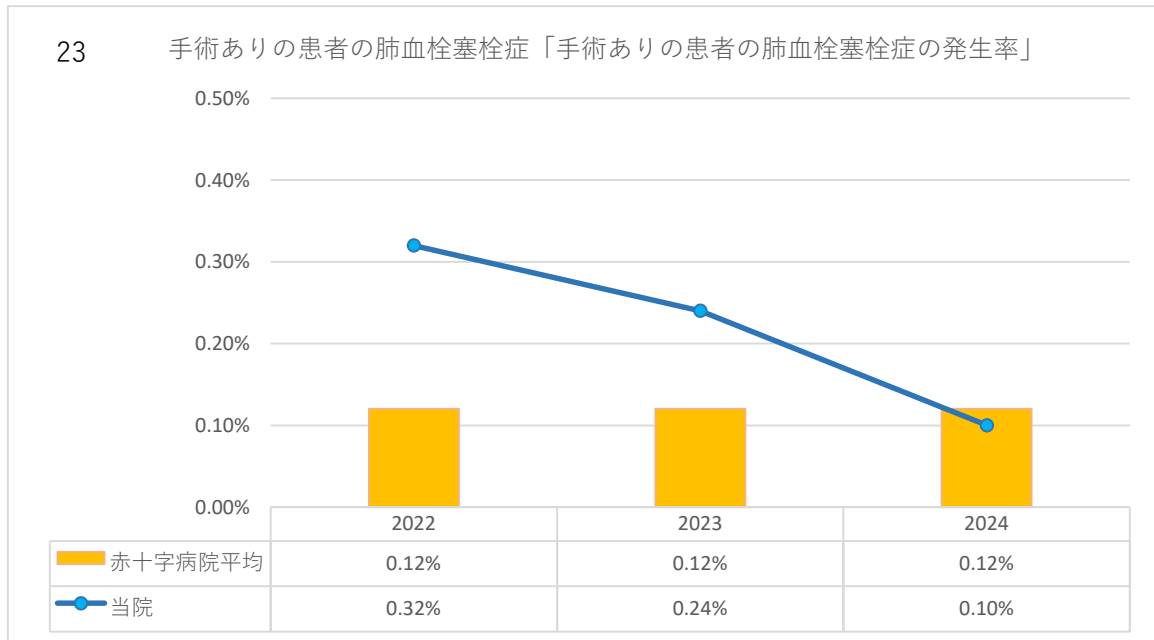
22



意義 周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は、発生率を下げることに繋がる。

計算方法 分母 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数
分子 分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策（弾性ストッキングの着用、間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法 of のいずれか、または2つ以上）が実施された患者数

23

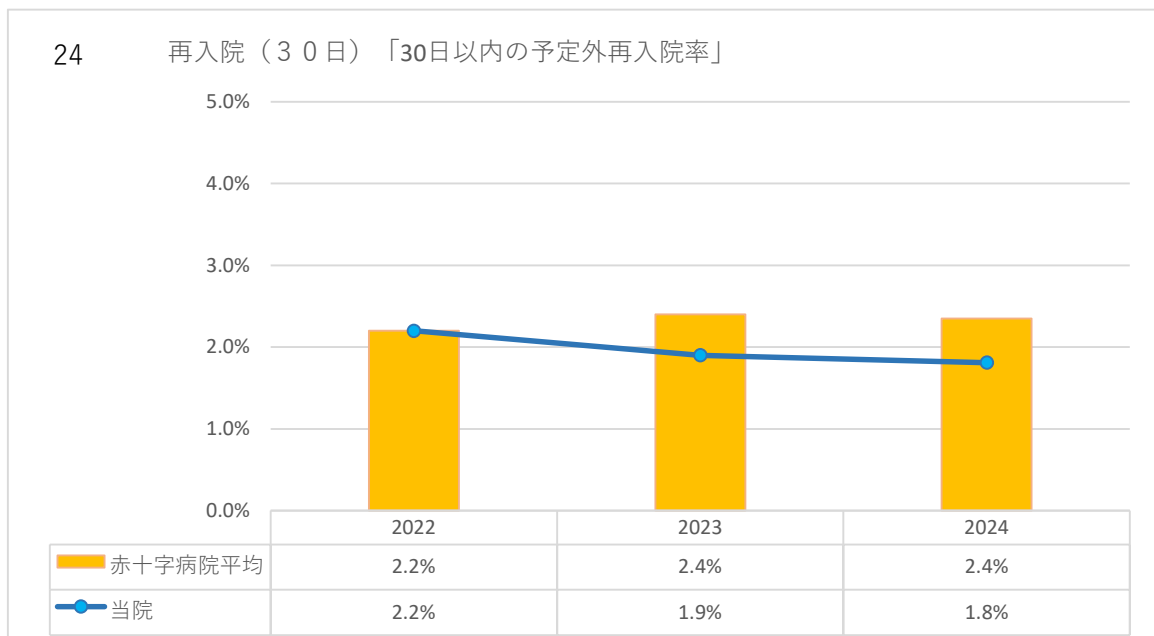


深部静脈血栓症の危険因子には、加齢、悪性腫瘍、肥満や妊娠、長期臥床など、周術期以外の場面でも発症するリスクがある。ガイドライン通りに予防措置を行ったとしても、肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症を完全に予防できるわけではないが、予防する行為を行っていかれば、その発症率は高まる。

計算方法 分母 肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

分子 分母のうち、肺血栓塞栓症を発症した患者数

24

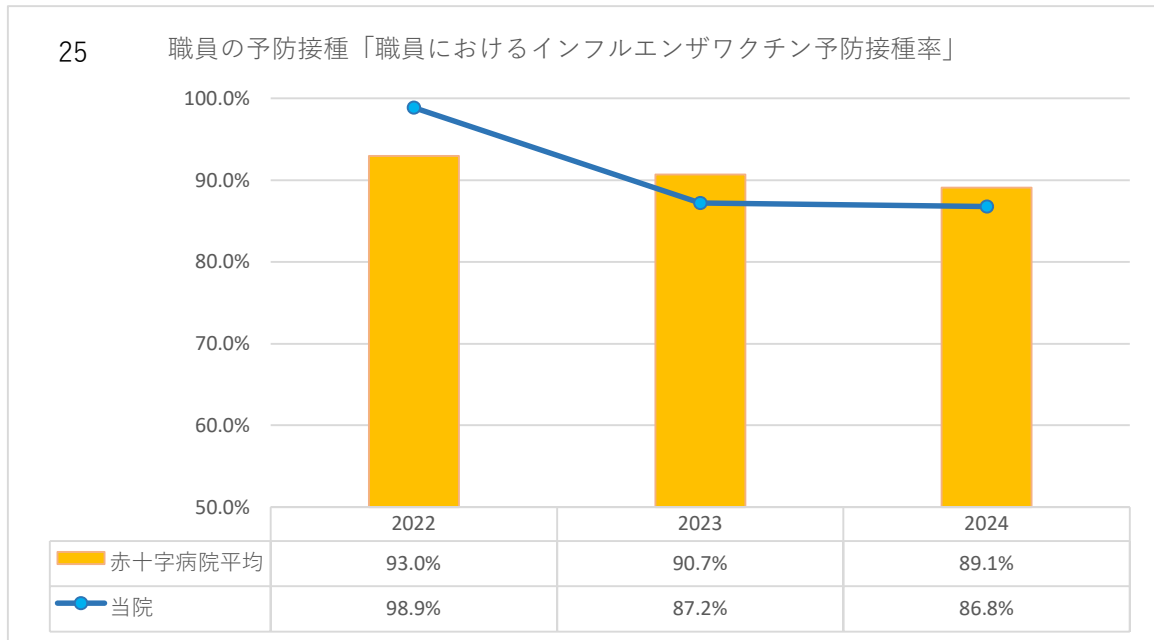


意義 前回入院時の治療が不十分であったこと、回復が不完全な状態で早期退院を強いたことによる等の予定外の再入院を防ぐ。

計算方法 分母 退院患者数

分子 分母のうち、前回の退院日が30日以内の救急医療入院患者数

25



医療機関を受診する患者は、免疫力が低下していることが多く、病院職員からの感染を
 意義 防止する必要がある。接種率が高い場合には、院内感染防止対策に積極的に取り組んで
 いると評価できる。

計算方法 分母 職員数（休職中の職員は除く）

分子 インフルエンザワクチンを予防接種した職員数

26

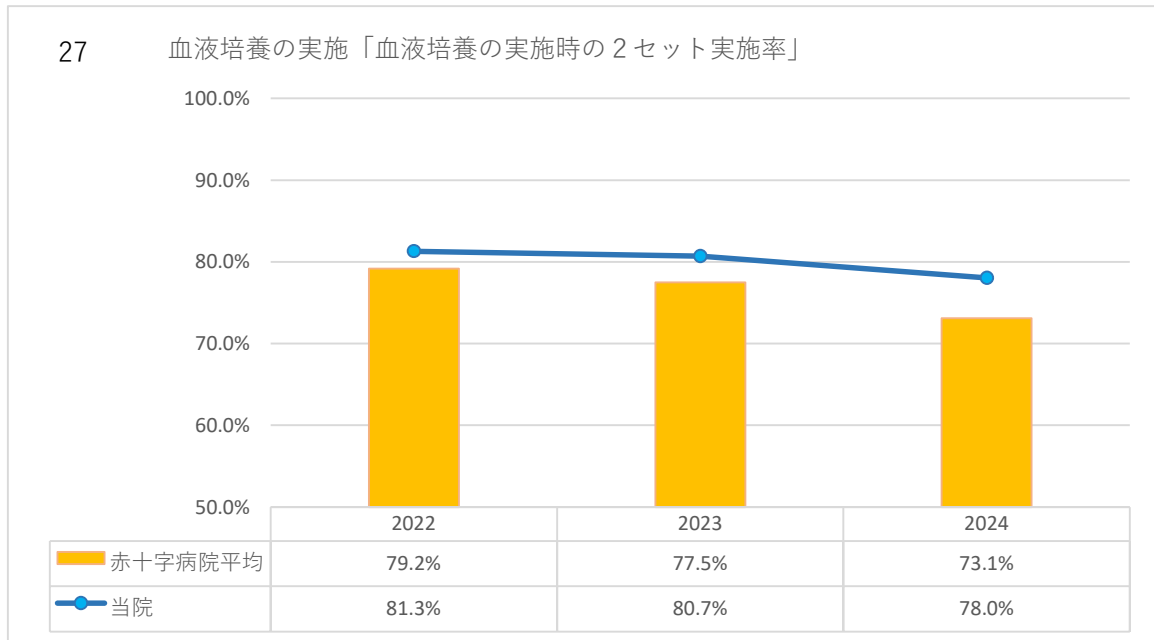


意義 近年、多剤耐性アシネトバクター属菌や、幅広い菌種に効果を有するカルバペネム系抗
 菌薬に耐性のある腸内細菌科細菌など、新たな抗菌薬耐性菌（以下、耐性菌）が出現

計算方法 分母 広域スペクトルの抗菌薬が処方された退院患者数

分子 分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数

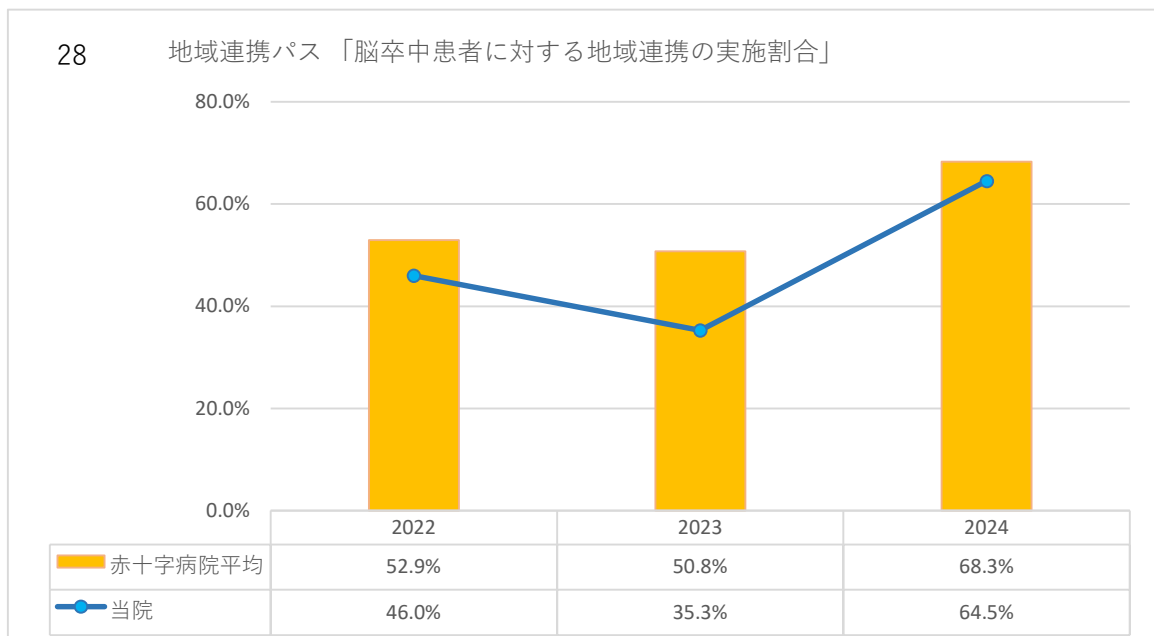
27



意義 血液培養は1セットのみの場合の偽陽性による過剰治療を防ぐため、2セット以上行うことが推奨されている。

計算方法 分母 血液培養オーダー日数（人日）
分子 血液オーダーが1日に2件以上ある日数（人日）

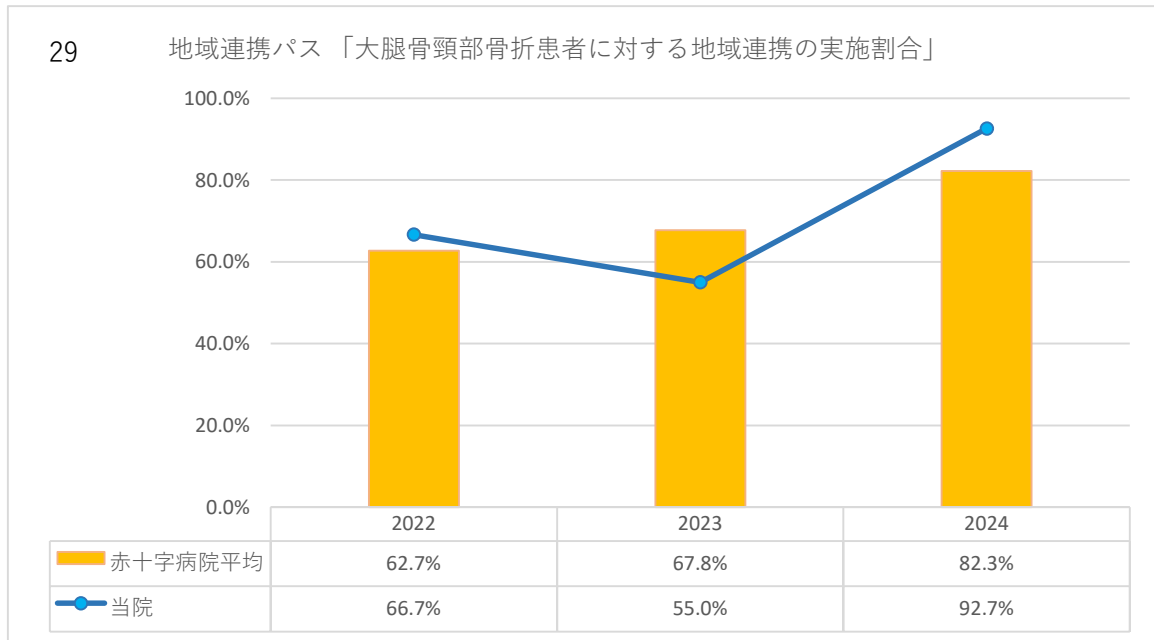
28



意義 地域連携実績を評価する。

計算方法 分母 脳卒中で入院した患者数
分子 分母のうち地域連携に関する算定のある患者数

29

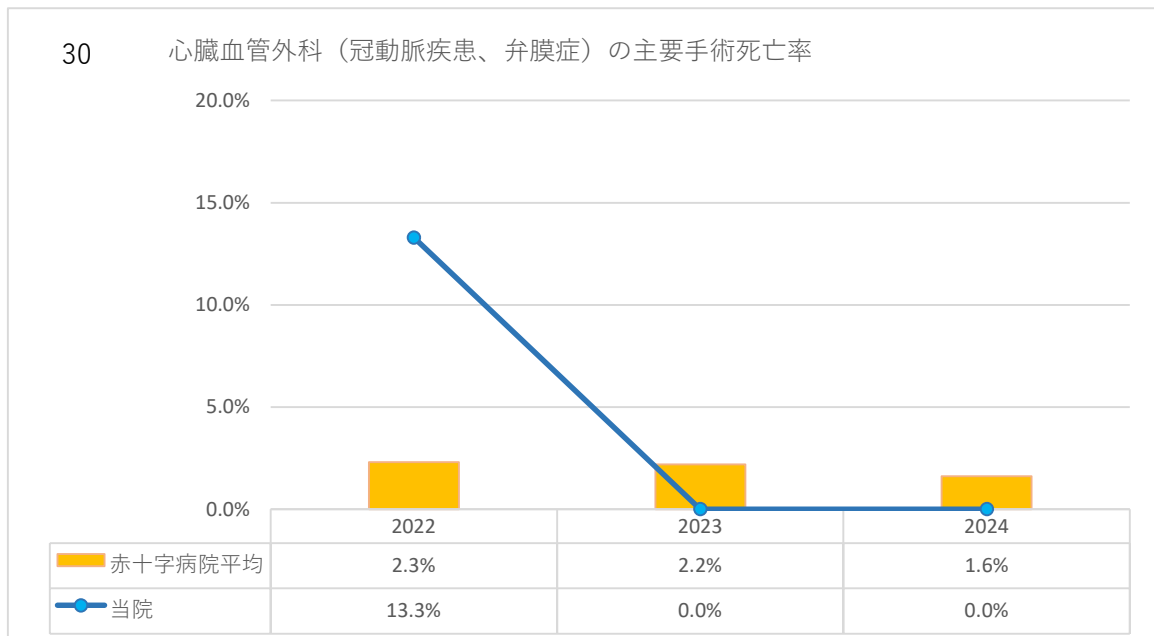


意義 地域連携実績を評価する。

計算方法 分母 大腿骨頸部骨折で入院し、大腿骨頸部の手術を受けた患者数

分子 分母のうち地域連携に関する算定のある患者数

30

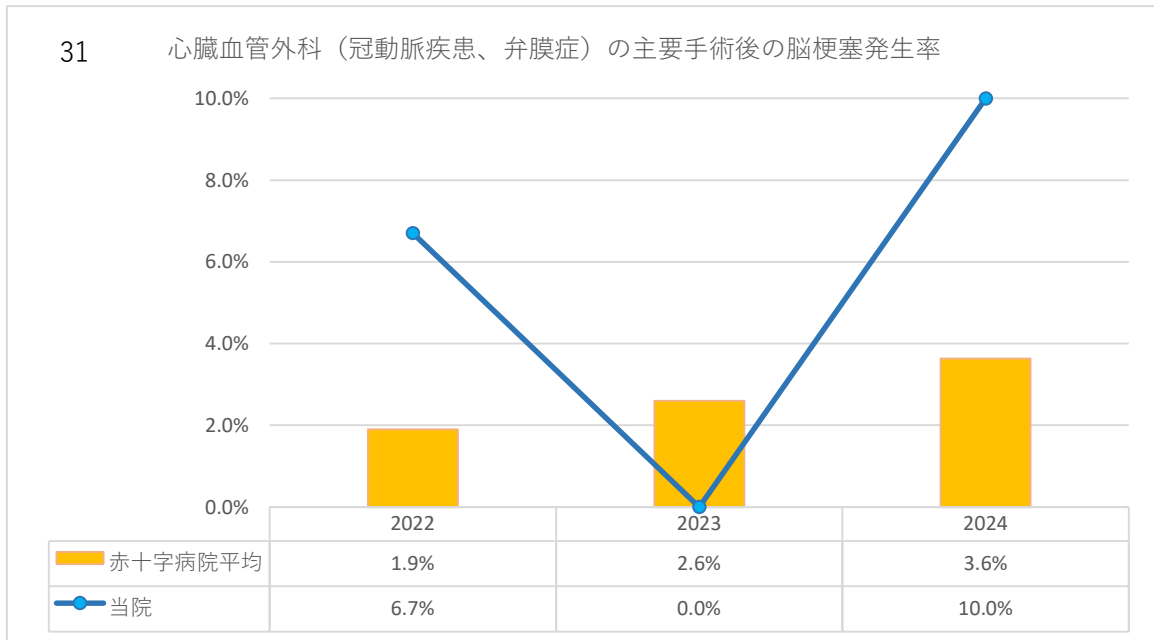


意義 心臓血管外科（冠動脈疾患、弁膜症）の主要な手術の死亡率の把握。（緊急入院患者は除外する）

計算方法 分母 予定入院で、心臓血管外科（冠動脈疾患、弁膜症）の主要な手術が施行された患者数

分子 分母のうち、退院時転帰が「死亡」の患者数

31



意義 心臓血管外科（冠動脈疾患、弁膜症）の主要な手術後の脳梗塞発生率の把握。（緊急入院患者は除外する）

計算方法 分母 予定入院で、心臓血管外科（冠動脈疾患、弁膜症）の主要な手術が施行された患者数

分子 分母のうち、入院後に脳梗塞を発症した患者数

32



意義 早期に低栄養リスクを評価し適切な介入をすることで、在院日数の短縮、予後改善につながる。

計算方法 分母 65歳以上の退院患者数

分子 分母のうち入院後48時間以内に栄養ケアアセスメントが行われたことがカルテに記載された患者数



意義

身体的拘束は、制限の程度が強く、また、二次的な身体的障害を生ぜしめる可能性もあるため、代替方法が見出されるまでの間のやむを得ない処置として行われる行動の制限であり、できる限り早期に他の方法に切り替えるよう努めなければならないものとされている。施設や医療機関などで、患者を、「治療の妨げになる行動がある」、あるいは「事故の危険性がある」という理由で、安易にひもや抑制帯、ミトンなどの道具を使用して、患者をベッドや車椅子に縛ったりする身体拘束は慎むべきものである。

計算方法 分母 退院患者の在院日数の総和

分子 分母のうち身体拘束日数の総和